

9月水害を受けた 今後の被災者支援について



一般社団法人多文化人材活躍支援センター
代表理事 山路健造



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

山路健造（多文化人材活躍支援センター代表理事）



立命館アジア太平洋大学卒業

西日本新聞社で7年間、記者職として九州の国際交流、国際協力、多文化共生の現場などを取材。

新聞社を退職し、JICA青年海外協力隊でフィリピンへ派遣。自らも海外で「外国人」を経験。

帰国後、認定NPO法人地球市民の会入職。

2018年1月にサワディー佐賀を立ち上げ、代表に。

ウクライナ避難民支援の官民連携組織「SAGA Ukeire Network」事務局も担当。

現在は、一般社団法人多文化人材活躍支援センター代表理事を務めるほか、2024年2月より能登半島地震支援に携わり、9月より輪島市社会福祉協議会生活支援相談員も兼務。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

一般社団法人 多文化人材活躍支援センター 誰もが活躍して輝ける社会に



2か国以上の文化背景を持つ「多文化人材」がその経験や能力、知識、ネットワークを生かし、誰もが生まれた国や在留資格に関係なく活躍でき、平和で幸せに暮らせる社会に貢献することを目的とする。

ウクライナと日本、タイと日本、ミャンマーと日本・・・など、2つ以上の文化や言葉を知っていることを「強み」に、その活躍の場をつくる。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

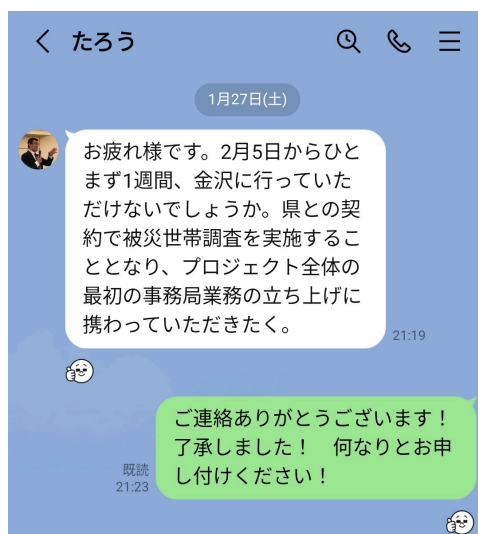


多文化＋サポート



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

私と能登支援



9月より輪島市社協職員、そして12月に完全移住。笑



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

能登（輪島）被害の実情



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

輪島市へ移住を決めた理由

- 厚労省の「被災高齢者等把握事業」で、輪島市の約11,000世帯すべてを訪問。そのデータをきちんと生かすような復興支援活動ができないか？=社協としての見守り相談支援
- 国際課、国際交流協会がない輪島市、奥能登地域で外国人住民支援ができないか？ NPOだからこそ公平性や市域に限らず活動できるのでは？=多文化共生



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

在宅避難者の調査・見守り活動

被災高齢者等把握事業(厚労省予算)

- ・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)として、ダイバーシティ研究所が受託
- ・調査対象 輪島市内の全世帯(10,887世帯、2024/4/1現在)
- ・調査期間 2024年4月1日～6月30日
- ・調査人員 調査員のべ 1,327人
- ・調査方法 ①被災世帯を直接訪問し半構造式面接方式で調査(訪問アセスメント)
②調査対象者本人がPCやスマホ等から直接入力(セルフアセスメント)
- ・有効回答数 **3,096件**
(①訪問アセス:3,039件 ②セルフアセス:57件)
- ・訪問数 **12,253件(重複、空き家含む)**



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

在宅避難者の調査・見守り活動

地域ささえあいセンター

仮設入居者を青年海外協力協会(JOCA)、
在宅避難者を輪島市社会福祉協議会が担当。

被災者の様々な生活上の問題について相談に応じ、解決を図り、生活の安定に向けた支援、被災者の孤独化防止や心のケアを行うとともに、住民同士のつながりを再構築し、自立的な見守り体制の構築を図るため、自治会活動への支援や交流活動の支援等、地域コミュニティの形成・強化に向けた必要な支援を行うことを目的とする。



輪島市災害たすけあいセンター
見守り・相談支援班

輪島市
約11,000世帯



仮設
約3000世帯



広域避難
約2500世帯



5500世帯



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

奥能登の外国人住民の実態把握の必要性

背景

- 能登半島地震以降、奥能登地域の外国人住民は、技能実習生の実習先の変更や日本航空学園のキャンパス移転などで人口が減少したと思われる（輪島市地震前197人→2025年1月1日98人）
- 一方、日本人との配偶者などは、家族の問題、子どもの教育、子どもの言葉の問題などで、決して離れられない。
- 企業側としても、能登全体の人口が減る中、外国人材に再び戻ってきてほしいという思いが強い。今後の復興のためにも、外国人材が暮らしやすい奥能登地域づくりが必要。
- しかし、行政の国際課も国際交流協会もなく（七尾市国際交流協会のみ）外国人住民が相談できる窓口がない。

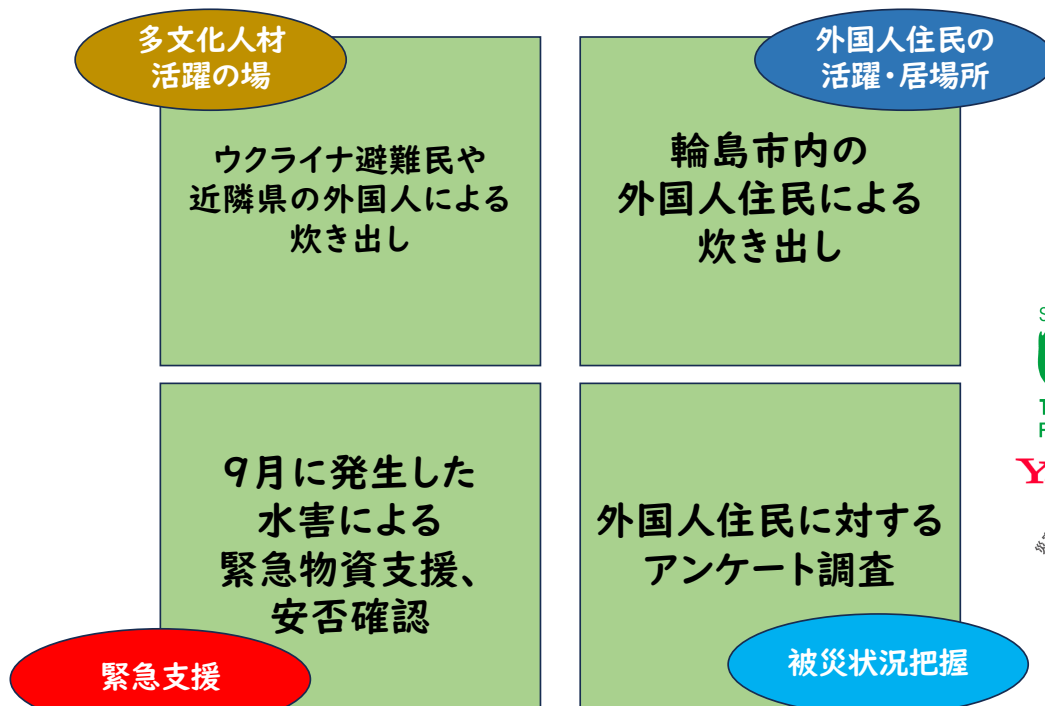


きちんと外国人住民の実態把握をし、
次なる施策、提言につなげたい



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

多文化人材を絡めた復興支援



Supported by
 日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

YAHOO! JAPAN 基金



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

炊き出し・物資支援



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アウトリーチによる物資支援と水害も含めた実態把握へ変更

雨が落ち着いた9/22より情報収集を開始したところ、一時孤立した鵜巣地区で「仮設に入居する技能実習生たちが物資をもらえていないのではないか」との情報を得て、水やカップ麺、レトルト食品などを持って持参すると「自転車で買い物に行けなかった」と喜ばれた。また、日本人配偶者から「電気がないのでライトがほしい」というSOSもあった。物資支援の必要性を感じ、住基を基にしたアウトリーチによる物資支援と、水害も加えたアンケート収拾の2軸へと方向転換をした。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

輪島市外国人住民支援展開

実態把握



ニーズ調査

ニーズを把握して
支援メニューを決定

居場所
づくり

日本語
教育

支援情報
相談会

防災情報
ガイドブック
作成

輪島市に外国人が戻り、さらなる受け入れに向けたインフラの整備



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アウトリーチによる安否確認 (9/30～10/1)

広島と神奈川のボランティアの協力を得て、住基情報を基に戸別訪問をして安否確認を実施。浸水エリアと想定していなかった地域に住む日本人配偶者のお宅に床上50センチ浸水した家を把握。すぐにボランティアセンターにつなぎ、土嚢を積んで家への川水の流入を防いだ。また、床上180センチし、「地震以降眠れていない。夜中4時くらいまで起きている」と話す日本人配偶者も把握した。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アセスメント設計

- 防災士の資格を持つ専門家に監修を依頼。
- 設問を絞る（外国人住民の離脱率を下げるため）
- 外国人住民の多い国籍を確認し、アンケート項目の翻訳をネイティブに依頼（NGOダイバーシティとやま）
- 輪島市福祉課のリクエスト
→地震の時にどう情報を得たか。誰がサポートしてくれたのか。避難、物資の情報をどうゲットできたか（できなかったも含めて）
- 使うSNSなども確認。グループなどをつくり、今後の情報の拡散。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アセスメント設計

- 名前 住所（地区名選択？ 記入してもらう？）
- 出身国 在留資格
- 地震の後に困っていることは？（家、仕事、医療、支援、言葉、ボランティアのニーズ）
- 地震の時に情報を得ることはできたか。サポートしてくれる人はいたか。得られなかった場合の理由。
- 今一番困っていることは何か（仕事、お金、情報、相談相手、交流、日本語など）
- 使っているSNS（LINE、Messenger、Telegram、Wechat）＝今後の情報発信、SNSグループ化へ



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

外国人住民向けイベントで アンケート回収を企画（10/20）

地震と雨にあった
輪島の外国人を
サポートします



カレーをたべられます
水（みず）をもらえます
相談（そうだん）ができます

2024年10月20日（SUN）11:00～
会場：ふれあいプラザニ勢
（輪島市二勢町4-4）
お金：お金はいりません

私たちは、日本に住む外国人を支援します。
何も持ってこなくてもいいです。
地震や雨で、困っていることを教えてください。
場所は、下のQRコードをカメラで撮ってください。
Google mapを見られます。

一般社団法人
多文化人材活躍支援センター
Tel: 080-8832-4576 Mail: office@tabusapo.org

QRコード

来てもらえませんか。
乗りたい人は
office@tabusapo.org
までメールください

また、アンケートの回収や物資配布などのため、外国人住民向けイベントを企画。多文化共生マネジャー有志などに呼びかけ、広島、岡山、徳島、京都、富山、東京から7人のボランティアに来てもらい、集まった外国人住民にアンケートに回答してもらった。また、同日は同じ会場で、別財源により富山ムスリムセンターの炊き出ししてもらい、日本人も含めて100人近い参加者があった。名古屋入管に相談ブースも設けてもらった。JICA北陸の関係者の参加もあった。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

外国人住民向けイベントで アンケート回収を企画（10/20）



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケートの概要

- ・ 翻訳言語:やさしい日本語、英語、タガログ語、ベトナム語、中国語、タイ語(1月1日現在の国籍別人数を基に設定)設問数:個人情報、普段の生活、地震後の状況、水害の状況を基に、計30問を準備。
- ・ 名前、住所、連絡先については、任意の回答とした。
- ・ 有効回答数:42件(回答率39%)



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

輪島市の外国人のためのアンケート

このアンケートは、輪島市で2024年1月に起きた地震後の外国人の生活を把握することを目的に、日本で暮らす外国人住民の支援を行う「一般社団法人多文化人材活躍支援センター」が実施するものです。お答えいただいた回答は、輪島市に住む外国人が必要とする支援のために活用します。

■調査実施団体

調査実施団体:多文化人材活躍支援センター「窓口」:輪島市福祉課、輪島市社会福祉協議会

■お問い合わせ先

本アンケートに関する質問は、以下の連絡先までご連絡ください。

多文化人材活躍支援センター 広報

office@tabusapo.org / 080-8832-4576 / LINE ID: kenzoya3

はじめに、あなたのことを教えてください。

Q1. あなたは、何歳ですか。

Q2. あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1. 男	2. 女	3. 答えたくない
------	------	-----------

Q3. あなたは妻や、夫、パートナーがいますか。(○はひとつ)

1. いる : あなたと同じ国の夫	2. いる : 日本の夫	3. いる : 母の国の夫
4. いない : いたことがない	5. いない : 離婚した、死んだ	6. 答えたくない

Q4. 生まれた国や地域を教えてください。

Q5. あなたの在留資格を教えてください。(○はひとつ)

1. 技能実習	2. 留学	3. 特定技能	4. 技術・人文・国際業務
5. 家族滞在	6. 永住者	7. 日本人と結婚	8. 永住者と結婚
9. 定住者	10. わからない	11. 答えたくない	12. その他 ()

Q6. あなたは日本に何年住んでいますか。また、輪島市に何年住んでいますか。

(1) 日本に住んでいる年数

1. 1年より少ない	2. 1～3年	3. 3～5年	4. 5～10年
5. 11～20年	6. 20年より多い	7. 答えたくない	

(2) 輪島市に住んでいる年数

1. 1年より少ない	2. 1～3年	3. 3～5年	4. 5～10年
5. 11～20年	6. 20年より多い	7. 答えたくない	



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

Q7. あなたが一緒に住んでいる人の数を教えてください。あなたも人数に入れてください。

Q8. 誰と一緒に住んでいますか。(○はいくつでも)

1. 夫・妻・パートナー	2. 自分の子ども	3. 自分の親	4. 夫・妻・パートナーの親
5. 兄・弟・姉・妹	6. そのほかの家族	7. 友達	8. 会社で一緒に働く人
9. 一人で住んでいる	10. 答えたくない	11. その他 ()	

Q9. あなたはどこに住んでいますか。(○はいひとつ)

1. 自分の家	2. 会社の寮	3. 賃貸住宅 (家が壊れた人が住む家)
4. みなし賃貸(家が壊れた人が住むアパート)	5. 避難所(地域の学校やコミュニティセンターなど、逃げる場所)	6. 家族や親戚の家
7. 友達の家	8. ホテル・旅館	9. 答えたくない
10. その他 ()		

Q10. あなたは、働いていますか。(○はいひとつ)

1. 働いている	2. 失業の時から働いていない (仕事を探んでいる人も入ります)	3. 失業の時から働いていない (仕事を探んでいる人も入ります)
4. 答えたくない	5. その他 ()	

Q11. 【働いている人へ】どこで働いていますか。(○はいひとつ)

1. 農業	2. 農業・林業	3. レストラン・お店	4. 観光・ホテルなど
5. 介護・福祉・病院	6. 食べ物や商品を作るメーカー	7. 建設業	8. 事務・オフィスワーク
9. 学校の先生	10. 公務員	11. 答えたくない	12. その他 ()

Q12. あなたは、日本語でどのくらい会話ができますか。(○はいひとつ)

1. ほとんどできない	2. 簡単な日本語ができる (N5くらい)
3. 日常会話がゆっくり話せる (N4くらい)	4. 日常会話が話せる (N3くらい)
5. 新聞やニュースがわかる (N2くらい)	6. 少しずつ話せる (N1くらい)
7. 答えたくない	8. その他 ()

Q13. 友達、家族、職場の人と、どうやって連絡をしますか。(○はいくつでも)

1. Facebook Messenger	2. LINE	3. Wechat	4. Instagram
5. Telegram	6. WhatsApp	7. Kakao Talk	8. 携帯電話
9. 使っていない	10. 答えたくない	11. その他 ()	



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

Q14. あなたは、どんな情報がほしいですか。(○はいくつでも)

1. 家についての情報	2. 仕事についての情報
3. 子育てや子どもの学校についての情報	4. 病院や福祉の情報
5. 生活についての情報、ゴミの出し方など	6. 交通や移動についての情報、バスのルートや時刻など
7. 日本語の勉強についての情報	8. 地震や災害が来た時の情報
9. 自分の国の料理の材料を賣える場所	10. イベントについての情報
11. 外国人が集まる場所やイベント	12. あなたの国の言葉で相談できる場所
13. 特にな	14. 答えたくない
15. その他 ()	

Q15. あなたが福島市で生活するための情報は、どうやって調べていますか。(○はいくつでも)

1. テレビ・新聞・ラジオ	2. 市役所や行政、担当する部署からの連絡やチラシ、広報誌
3. 管理団体・登録支援機関	4. 職場
5. 学校	6. 同じ国から来た友達
7. 日本人の友達	8. 外国人の友達
9. 近くに住む日本人	10. 日本にいる家族・親族
11. あなたの国にいる家族・親族	12. 日本語のインターネット・SNS
13. あなたの国の言葉のインターネット・SNS	14. 地域の国際交流団体
15. 地域の日本語教室	16. 大使館・領事館

17. 特にな	18. 答えたくない
19. その他 ()	

Q16. あなたが困ったり、心配したりしたときに、誰に相談しますか。(○はいくつでも)

1. 日本にいる家族・親族	2. あなたの国にいる家族・親族
3. 同じ国から来た友達	4. 日本人の友達
5. 外国人の友達	6. 近くに住む日本人
7. 職場・学校の人	8. 管理団体・登録支援機関
9. 市役所・行政	10. インターネット・SNS
11. 地域の国際交流団体	12. 地域の日本語教室
13. 大使館・領事館	14. 地域の国際交流団体
15. 地域の日本語教室	16. 相談できる人がいない
17. 答えたくない	18. その他 ()

2024年1月1日の地震が起きたときのことについて聞きます。

Q17. 地震の時、あなたは逃げましたか。(○はいひとつ)

1. 逃げた (車で逃げた人も入れます)	2. 逃げなかった・そのまま家にいた
3. 2024/1/1は石川県にいなかった (日本にいなかった人も入れます)	4. 答えたくない
5. その他 ()	

Q18. 【逃げた人へ】どこに、誰と逃げましたか。詳しく書いてください。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

Q19. 1/1に、地震のことや、逃げる場所のことなどの情報をどうやって調べましたか。(○はいくつでも)

1. テレビ・ラジオ	2. 防災無線
3. ミュニシティ・防災テラリ	4. 市役所や行政からの連絡
5. 管理団体・登録支援機関からの連絡	6. 職場からの連絡
7. 学校からの連絡	8. 同じ国から来た友達
9. 日本人の友達	10. 外国人の友達
11. 近くに住む日本人	12. 家族・親族
13. 日本語のインターネット・SNS	14. あなたの国の語のインターネット・SNS
15. 地域の国際交流団体	16. 地域の日本語教室
17. 大使館・領事館	18. 特にない
19. 覚えてくれない	20. その他()

Q20. 地震がおきてすぐ(1/1~3)に、困ったことは何でしたか。(○はいくつでも)

1. 地震が起きたとき、'命'を導くために、 何をすればよいか、わからなかった	2. どこに逃げたらよいかわからなかった
3. 壁や家やビルが揺れていて、逃げられなかった た	4. 何が始まっているかわからなかった・ パニックになった
5. 災害・地震についての日本語がわからなかった	6. 電波・ガス・水道が使えなかった
7. 水・食べものがなかった	8. トイレに行けなかった

9. 怖かった	10. 家族や友達と連絡ができなかった
11. ほしい情報がもらえなかった	12. 地震のことを'考えて'読れない・役に起きる
13. 特にない	14. 覚えてくれない
15. その他()	

2024年9月にたくさん雨が降ったときのことについて聞きます。

Q21. 大雨の時、あなたは逃げましたか。(○はいとつ)

1. 逃げた (車で他人も入れます)	2. 逃げなかった・そのまま家にいた
3. 2024/9/21ごろは岩川前になかった (日本になかった人も入れます)	4. 覚えてくれない
5. その他()	

Q22. 【逃げた人へ】どこに、誰と逃げましたか。詳しく書いてください。

Q23. 大雨のことや、逃げる場所のことなどの情報をどうやって調べましたか。(○はいくつでも)

1. テレビ・ラジオ	2. 防災無線
3. ミュニシティ・防災テラリ	4. 市役所や行政からの連絡
5. 管理団体・登録支援機関からの連絡	6. 職場からの連絡
7. 学校からの連絡	8. 同じ国から来た友達
9. 日本人の友達	10. 外国人の友達
11. 近くに住む日本人	12. 家族・親族



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

13. 日本語のインターネット・SNS	14. あなたの国の語のインターネット・SNS
15. 地域の国際交流団体	16. 地域の日本語教室
17. 大使館・領事館	18. 特にない
19. 覚えてくれない	20. その他()

Q24. 大雨がおきてすぐ(9/21~23ごろ)に、困ったことは何でしたか。(○はいくつでも)

1. 大雨が降っているとき、'命'を導くために、 何をすればよいか、わからなかった	2. どこに逃げたらよいかわからなかった
3. 壁や家やビルが揺れていた、 が揺れなくなって、逃げられなかった	4. 何が始まっているかわからなかった・ パニックになった
5. 災害・大雨についての日本語がわからなかった	6. 電波・ガス・水道が使えなかった
7. 水・食べものがなかった	8. トイレに行けなかった
9. 怖かった	10. 家族や友達と連絡ができなかった
11. ほしい情報がもらえなかった	12. 地震や雨のことを'考えて'読れない・役に起きる
13. 特にない	14. 覚えてくれない
15. その他()	

Q25. 地震と大雨が起きて、今、困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

1. 壊れた家の片づけについて	2. あなたや家族の健康・病気・病院について
3. 家を新しく建てたり、支援の制度について／家が壊れた 人の避難や、壊れた家を直すこと、家を直すことについて	4. 地震の後どこに住むか

5. 水・電波・ガスなどライフラインについて	6. ショッピングや、生活に必要なものについて
7. 食べ物や食料について	8. バスや車など交通について
9. 仕事について	10. 友人など生活に使うお金について
11. 近くに住む人や、逃げた場所での コミュニケーションについて	12. お年寄りや、障害者の生活について
13. 今後の地震や豪雨など災害への不安 ／どんな準備をすればいいかについて	14. 日本語や多文化コミュニケーションについて
15. 家に居る人がいない／一人だと感じる	16. 災害についての情報を どこで・どうやってもらえるか
17. 災害や家をまた建てることなどについて、 誰に相談すればいいかわからない	18. 差別をされていると感じたことがあった／ 感じることもある
19. '宗教'・文化・習慣が通って困ったことがあった	20. 子どもの学校について
21. 特にない	22. 覚えてくれない
23. その他()	

Q26. いつもの生活や災害について、不安なこと、困っていること、サポートしてほしいことについて、

何でも書いてください。

ご協力ありがとうございました。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

みなさんが書いた情報は、輪島市の外国人をサポートするために使います。

情報を使ってもよい人は、あなたの情報を教えてください。

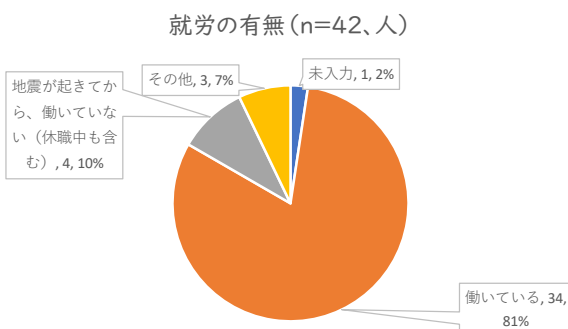
名前	
住所（住んでいるところ）	
電話・メールアドレス	
イベントやサポートの情報を送ってもいいですか？	☐ 送ってもいい ☐ 送らないでほしい

アンケートに答えていただきありがとうございました。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（就労）



就労については、34人が「働いている」と回答。一方で、「地震が来てから働いていない（休職中も含む）」も4人おり（全員が日本人配偶者）、**就労支援も求められていることがわかる。**職種では、食品加工・製造業が多く、介護・福祉・医療や漁業に従事する人もいた。

在留資格×職種 (n=39)	1 技能実習	3 特定技能	4 技術・人文・国際業務	6 永住者	7 日本人の配偶者等	8 永住者の配偶者等	12 その他	
職種	14	2	3	11	6	1	2	39
12 その他	5			2	3	1	1	12
11 答えたくない					1			1
9 教育				1				1
7 建設業	1	2	3					6
6 食品加工・製造業	6			2				8
5 介護・福祉・医療				2	1		1	4
4 観光業・宿泊業				1	1			2
3 飲食店・小売店				1				1
2 農業・林業				2				2
1 漁業	2							2



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（日本語レベル）

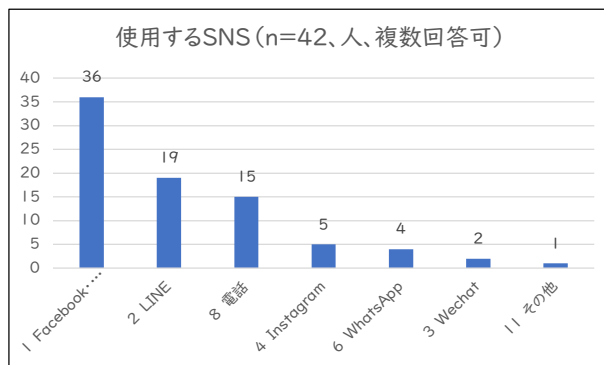
日本語レベル×在留資格×在住歴 (n=42、人)		1年より少ない	1～3年	3～5年	5～10年	11～20年	20年より多い	
日本語レベル	在留資格		5	9	1	6	14	7 42
その他	12 その他				1			1
	7 日本人の配偶者等							1
N1	3 9 定住者							1
	6 永住者					2		2
N2	4 7 日本人の配偶者等					1		1
	6 永住者					1		2
N3	4 技術・人文・国際業務			1				1
	12 12 その他							1
	8 永住者の配偶者等					1		1
	7 日本人の配偶者等					2		2
	6 永住者					5		6
N4	4 技術・人文・国際業務	1						1
	3 特定技能							1
	9 7 日本人の配偶者等				1	1		2
	6 永住者					1		2
N5	3 特定技能				1			1
	1 技能実習	1	2					4
	10 7 日本人の配偶者等							1
	6 永住者							1
未入力	4 技術・人文・国際業務				1			1
	1 技能実習	2	5					7
	2 1 技能実習	1	1					2

日本語レベルについては、N1レベルは3人。N5、N4が45%を占めている。在住歴が10年超でもN5と回答した方もいた。また、技能実習生はN5かN4にとどまっており、日本語力はあまり高くないことが分かった。市内には日本語教室が一つある。日本語教育のサポートが必要と考えられる。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（普段の生活）

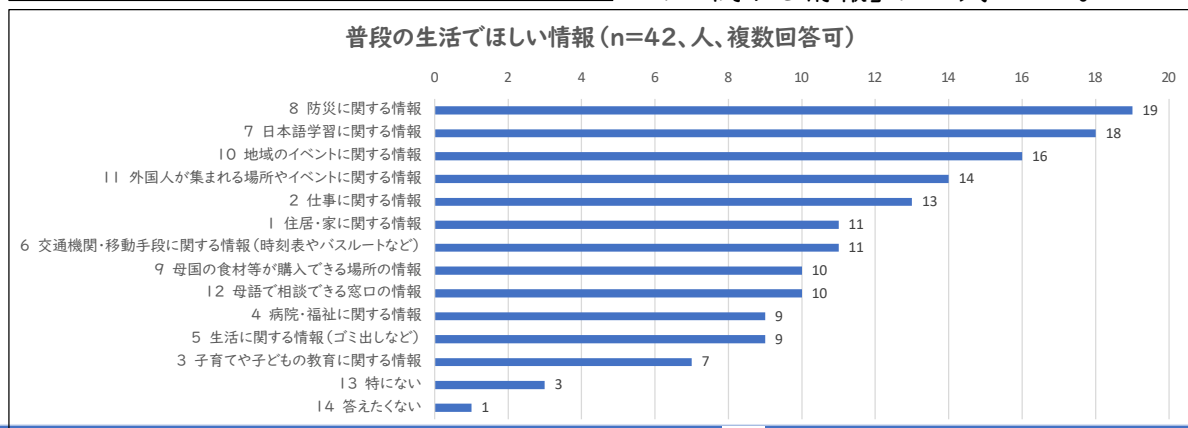


友人・知人・家族・職場などと連絡を取るツールとしては、大多数が

「Facebook・Facebook

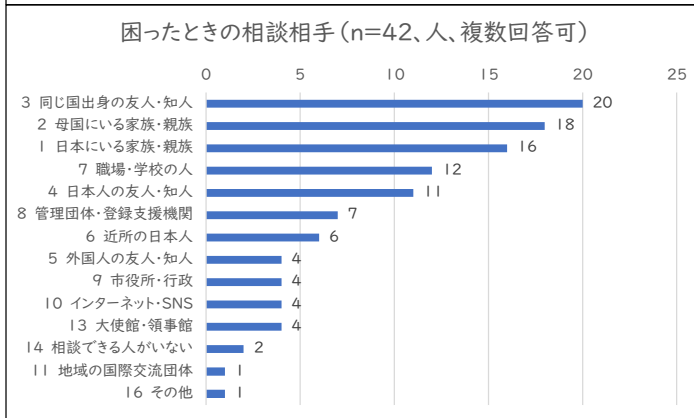
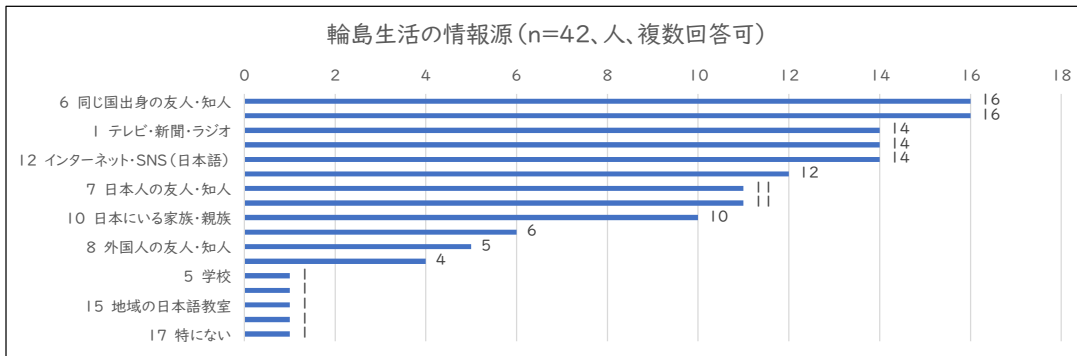
Messenger」と回答。LINEや電話と回答する方もいた。

また、日常生活でほしい情報としては、「防災に関する情報」と「日本語学習に関する情報」「地域のイベントに関する情報」「外国人が集まれる場所やイベントに関する情報」が人気だった。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（普段の生活）

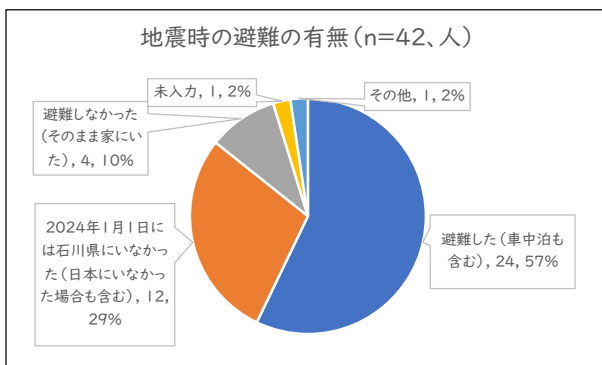


生活情報を得る情報源としては、「同じ国出身の友人・知人」が圧倒的に多かった。また、困ったことがあった際の相談相手としても「同じ国出身の友人・知人」が多かったことから、情報拡散のためにも、国ごとのコミュニティに いかにアプローチできるかが課題であると考えられる。相談相手がい
ないと答えた2人の拾い上げも必要である。

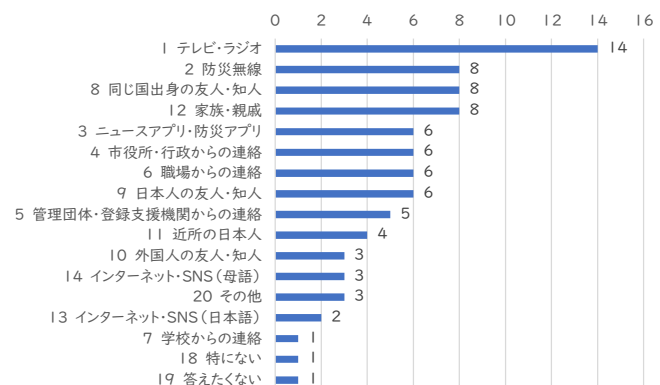


一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（地震）



地震時の情報源 (n=42、人、複数回答可)



地震時の避難行動については、57%が「避難した」と回答。地震情報を得る情報源としては、「テレビ・ラジオ」が最も多く、「防災無線」「同じ国出身の友人・知人」「家族・親戚」が続いた。「誰と避難したか」の自由記述では

8月、9月までは車で生活していた。今は仮設にいる (フィリピン人永住者)。

職場の人と公民館へ行った (カンボジア人技能実習生)。

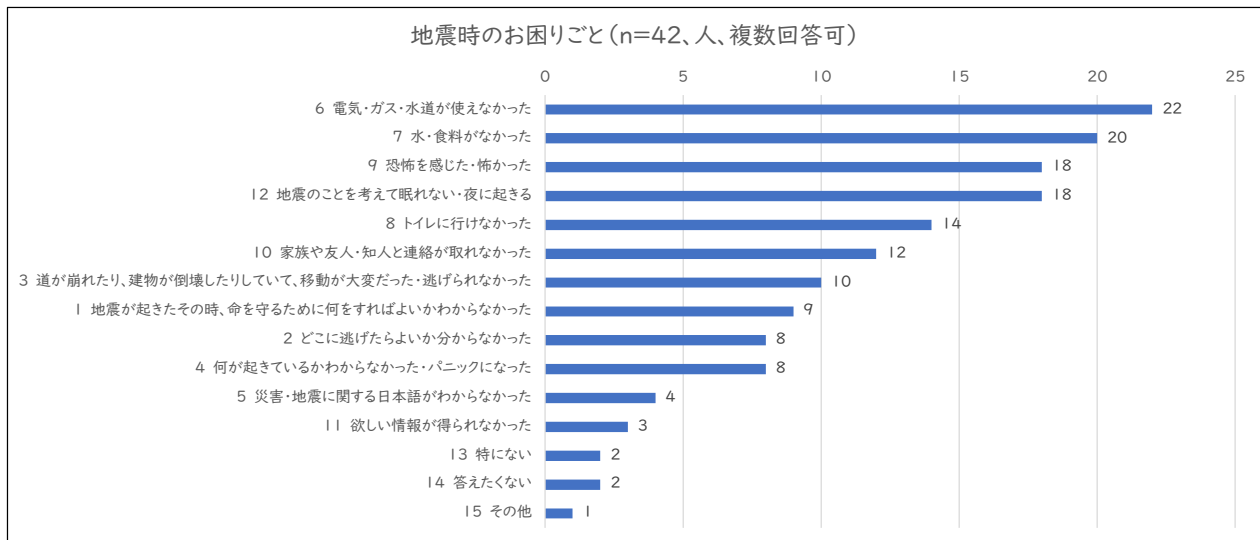
私たちは息子の学校で寝ました (フィリピン人永住者)。

などの声があった。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果(地震)

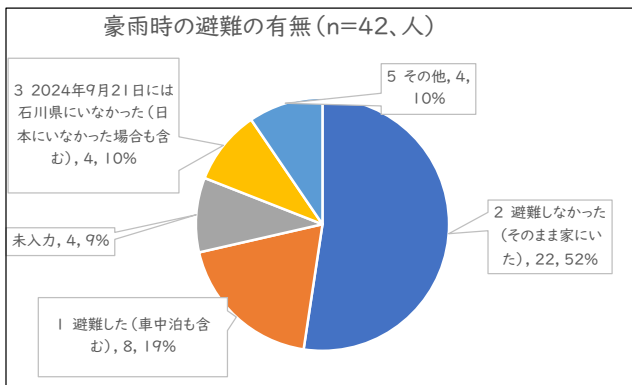


地震時のお困りごととしては、「電気・ガス・水道が使えなかった」が最も多かった。ついで「水・食料がなかった」が多かった。今回の回答者には、ムスリムなど宗教上の食の配慮が必要な方はいなかったと思われるが、外国人向けの物資の備蓄なども求められる。また、「恐怖を感じた・怖かった」「地震のことを考えて眠れない。夜に起きる」も18人ずつが回答しており、メンタルケアの必要性が考えられる。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果(水害)



家族と一緒に家にいるのは私だけでした。道がなかったので、仕事からすぐに家に帰ることができませんでした。(フィリピン人永住者)

仕事に行ったけどストップで、近く(穴水)の友達のところへ行った。(フィリピン人永住者の配偶者等)

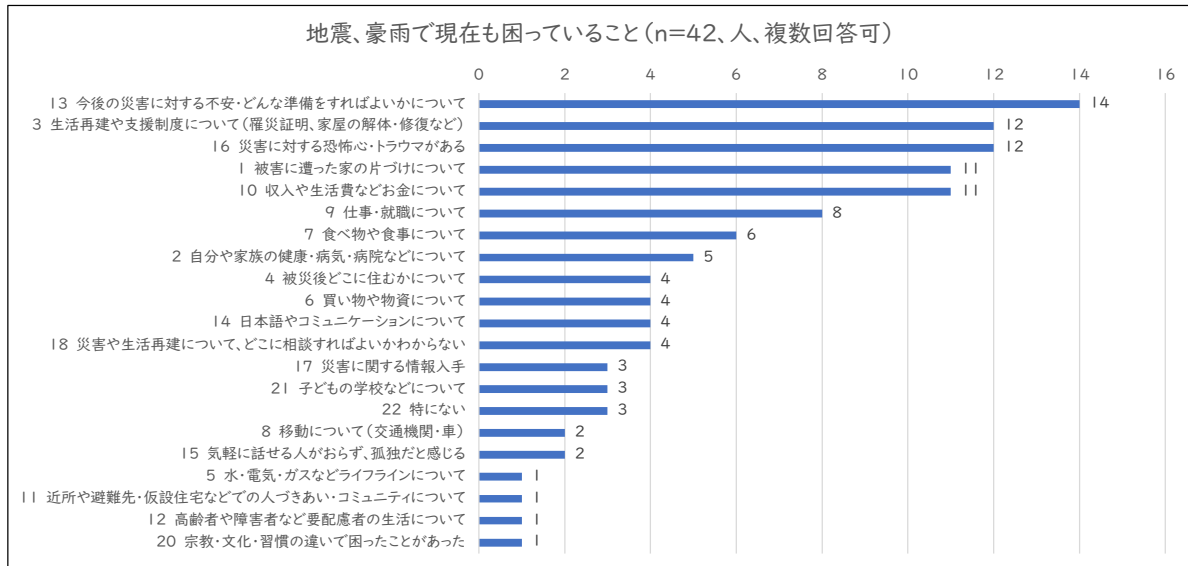
水害時の避難行動としては、半数が「避難しなかった」と回答。8人が避難した。雨脚が強まったのが9/21午前中だったこともあり、職場からすぐに帰られなかった方もいた。中には、今回の水害で浸水した宅田仮設に入居していた方もいた。仮設住宅が浸水するという前代未聞の災害で、命からがら避難したなどの声も寄せられた。

宅田仮設からワイプラザに一人で逃げたが、ワイプラが閉まるので、輪島病院へ避難。そこで、消防のボートで救助された夫と合流した。少し水が引いたので車を取りに行き(車は水があたり、煙が出たが、今も走れている。もともと軽トラは地震で壊れ、中古車)、ふれあい健康センターへと逃げた。ふれ健も水が入ったので、輪島中へ避難した。(フィリピン人永住者)



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（災害全般）



二重被災という未曾有の災害を受けて、現在でも困っていることとしては、「今後の災害に対する不安・どんな準備をすればよいかについて」「災害に対する恐怖心・トラウマがある」などが多く、**防災情報の発信や防災訓練、メンタルケアなどが必要だと考えられる**。また、住宅再建や支援制度、家の片づけなどに関するお困りごともあり、行政や技術系ボランティア、建築士など専門家へのつながりも必要だと考えられる。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケート結果（不安なことや困っていること、サポートが必要なことの自由記述）

米、果物、水がほしい。服も（カンボジア人技能実習生）

私たちは災害に対応することができます。決してあきらめません（フィリピン人永住者）

収入に関して言えば、顧客が遠方に移されたり、別の場所に移されたりしたため、減少しています。収入が支出を上回ることはなくなりました。私たちには大学と高校の学生がいます。私たちが住んでいた仮設に2年間過ごしたあと、家が火事になり、私たちはちょうど、イミンドル(?)で借りていたところです。それが私たちの未来の場所です。（フィリピン人永住者）

仕事を見つけない（フィリピン人日本人配偶者）

私にはもう家がありません。地震で被害を受け、政府の援助を受けて、仮設で息子と暮らしています。（フィリピン人永住者）

今のところは大丈夫。福祉の仕事が止まっているので、続けるか心配。（フィリピン人永住者）

家の近くで仕事探したい。息子（小4）のことも気になることがある。（フィリピン人永住者の配偶者等）



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケートのニーズからつないだ支援①



水害に遭い、玄関が流された日本人配偶者宅に、AAR難民を助ける会さんを通じて、技術系ボランティアの風組関東さんに入ってもらい、仮の玄関を設置。「寒くなる前に助かる」と感謝の言葉があった。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケートのニーズからつないだ支援②



金銭的な不安を抱えた外国人住民（永住者ビザ）から「中規模半壊の家を建て直すお金がないが、下の子ども（中学3年生）が高校を卒業するまで住み続けたい。何とか補修をしたい」と相談があり、こちらもAARさんと風組関東さんに入ってもらい、まずは隙間風が入り込んでいたお風呂周辺の壁をコンパネで補修してもらった。「業者に頼んだらどれだけのお金がかかるか不安だった。本当にこんな支援を探していた」と涙ながらに喜んでくれた。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケートのニーズからつないだ支援③



仮設住宅で暮らすアジア出身の技能実習生より「自転車で買い物に行く際に寒くなってきたが、冬服が高くて買えない」と相談があり、物資支援としてコートを届けた。「とても暖かいです」と喜んでくれた。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケートのニーズから始めた支援①



相談相手、情報源で「同じ国出身の友人・知人」が多かったことから、料理を通じて、同じ国のコミュニティの方々が集まれる居場所づくりを進める。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アンケートのニーズから始めた支援②



**Noto Multilanguage
Support/のと多言語サポ
ート**

「いいね！」5件・フォロワー9人

プロフェッショナルダッシュボード

経年 広告を掲載

Facebook利用者が多かったことから、「Noto Multilanguage Support/のと多言語サポート」のページを開設。生活情報や災害情報の発信をしていく。



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

輪島市、奥能登での外国人住民支援の次なるステップ

- アンケートを珠洲市や能登町、穴水町などでもできないか？ 地名の「輪島」を変えるだけで対応は可能（JICA北陸と連携）。
- 奥能登の外国人、支援者へのインタビューをまとめたレポート（ほくりくみらい基金と連携）。
- SNSを活用し、多言語情報提供を実施。
- 市町単位では難しくても、広域で外国人相談窓口をつくれないか？（NPOならば市町域を超えた活動が可能）



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

少しずつ多文化共生の輪を

1 基本理念

地域共生社会の実現をめざして
～お互いさまの気持ちで支え合い、助け合う地域づくり～

輪島市では高齢化が進み、地域の担い手も高齢化しています。

地域に暮らす人、一人一人が地域を構成する大切な存在として年齢、性別、障害のあるなしに関係なく、お互いに支え合い、助け合っていくことがこれからの地域づくりには重要です。

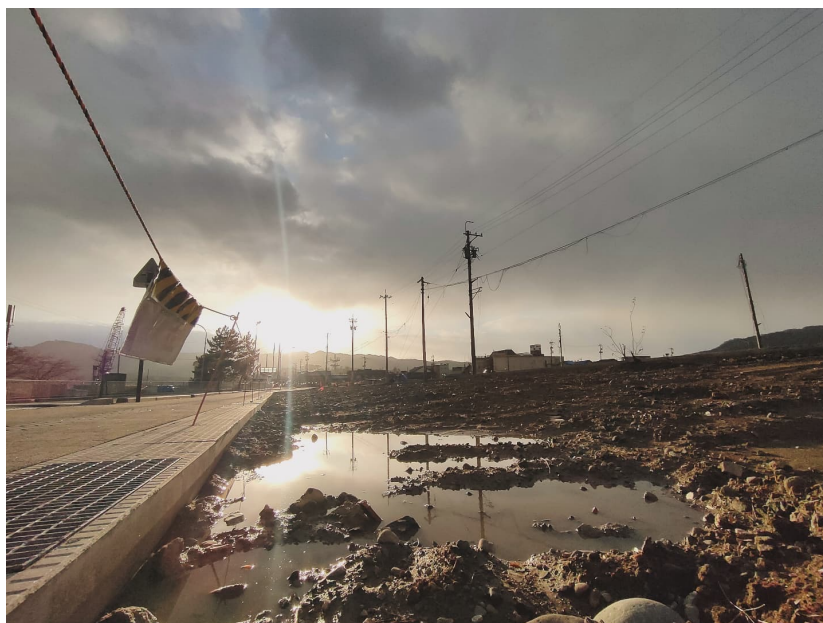
第3次活動計画では『地域共生社会の実現をめざして ～お互いさまの気持ちで支え合い 助け合う地域づくり～』を基本理念に掲げ、2つの基本目標と4つの行動目標を立て取り組めます。

2025年度に、第4次輪島市地域福祉活動計画の策定。「『外国人も市民』という視点が抜けていた」という社協幹部の声



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

**ぜひ輪島、奥能登の復興を
見に来てください！**



一般社団法人多文化人材活躍支援センター